

## ジョイサポコラム No.6

## 横須賀にきてみて

横須賀市立うわまち病院 総合内科 福味 禎子

今年は早くから鶯が上手に鳴くな、と思っていたら、あっという間に葉桜が目につくようになりました。

横須賀での生活も18年目に入ろうとしています。母校の診療体制が時代の流れとともに専門分野に分かれ、「内科のお医者さんになろう」と思っていた私にとっては少し窮屈な環境になっていました。そんな時、「内科のお医者さんを募集している病院があるよ。」といわれて紹介されたのが、現在のホームグラウンドである横須賀市立うわまち病院でした。きっと知った人には会わないだろうな、と思って横須賀にやってきましたが、同窓会が開催できるほどの諸先輩方がすでにこの地でお仕事されていました。

病院で仕事を始めてみると、診療部間の風通しはよく、看護師さんを始めとするコメディカルの皆さんがとても協力的で、仕事心地はとてもいいものでした。しかし暫くの間は、退院間際の患者さん皆さんが口を揃えて、「家が山の上で」とか「家まで階段が数十段あって」という意味がよく呑み込めませんでした。しかしある時、出勤時に平坂を登りながら周りを見ると、なるほどこの事か、と崖の上に聳え立つ住宅をみて納得、以来そのように言われても違和感を持つことはなくなりました。

私は卒業してから、ずっと病院勤務をしています。母校では病棟勤務のみ(まだ若かったので)でしたが、こちらに来てからは外来との二刀流になりました。ですが、やはり入院していた患者さんが元気に退院していかれる姿は、いつになっても嬉しく勇気づけられる光景です。また、うわまち病院が地域医療振興協会に属していることもあって、市内のみならず国内の地域支援に行くことができました。今まで、東は北海道の根室、西は沖縄の与那国島と日本の東西の最

先端と、東日本大震災の年には女川町にある診療所への支援にも参加させてもらい、母校ではなかなかできない貴重な診療を経験していると思っています。

ここ数年で、雇用を含めた医療事情が目まぐるしく変わってきました。うわまち病院でも年々女性医師が増えています。特に今年の研修1年目は75%の確率で女医さんです。各々オリジナルの仕事スタイルがあるとは思いますが、一番古株になった私が、このジョイサポと院内の女医さん方との架け橋になれるといいなと思っています。

最後に、英語の市内放送はいまだに完璧に聞き取ることができませんが、海あり、山あり、温暖な気候のこの横須賀で診療が続けていけるよう、心身ともに精進していきます。

